

第2次宣教旅行② —マケドニヤ人の叫び

使徒の働き16:6-15

2017,3,5 HKJCF

概観

序)①激しい対立 ②聖霊の導き

③第2次宣教旅行の意味

I マケドニヤ人の叫び V6-10

II 「神様のみ心」を知る (1)

III 「神様のみ心」を知る (2)

IVピリピでの宣教 V11-15

「父なる神様、あなたのみ心に従う時、豊かな祝福があり、あなたの栄光が讃美されます。私の計画・方法・タイミングではなく、主の導きを示して下さい。」

I マケドニヤ人の叫び

1、不安・謙り・祝福:アジア→トロアス

2、聖霊による禁止:禁止からみ心へ

3、マケドニヤ人の叫びと「み心」の確信

⇒①状況・能力と聖霊の導き

②「状況・能力だけ=状況・能力依存」ではご都合主義、「聖霊の導きだけ=主観主義」では精神主義の危険:＋対照表以上に「み心を知る重要性」

③「聖霊の働き」としての「使徒の働き」は「聖霊のイニシアティブ」 I コリ14:29

II 「み心」を知る(1)

1、聖書との一致:聖書・福音=聖霊

2、献身:目的・動機の純粹さ/自我の死

3、癒し:傷の癒し→心の偏りからの解放

①反発:親・年長・権威・リーダー・GNDR

②被害感情:支配的愛・裏切り・遺棄

③トラウマ→①-③の癒しと霊の自由

4、状況依存⇔精神主義

5、信仰の指導者の客観的判断

6、聖書的方法? 人間的方法? 土7:1-8

7、肉が喜ぶ事は黄色信号

III 「み心」を知る(2)

1、み心に従うことが最善という信仰

2、自分の偏りからの自由 欲望⇔栄光

3、自分を「神様とその方法」に委ねる

4、神様から見た現実=真実

①道が閉ざされる

②新しいビジョンが与えられる

③神様の側からの現実の見方を受容

5、状況・能力・方策・信仰者の勧め

⇒献身・聖書・オープンな心・客観的データ・アドバイス・謙り・祈り・平安感

IVピリピでの宣教

1、川岸の祈り場→ユダヤ人の習慣

2、テアテラ人、敬虔な女商人ルデヤ

3、家族全体の救い→平安の子

4、平安の子と家の教会の形成

①パウロは聖霊の導きに敏感

②聖書の方法に忠実 マタイ10:5-14

⇒①両者のバランスが結実 使16:2

②聖霊の導きは福音を純化・徹底

③み心を知るのは神に従う為⇔占い

④平安の子とその家族

⑤主の方法に従うことの祝福